

夢のかけはし

日本の代表的な花の一つであるキクを栽培して40年以上になります。農家で育った影響もあり20歳で農業を志し、露地栽培から始めました。高隈ダムからの通水に合わせ、ハウスで野菜を作り始めましたが思うような収量が得られず、農業の厳しさを実感。ちょうどその頃、大阪万博に行き、「笠野原台地を中心に大隅肝属地域は将来農業が進展する」と書いてあるパネルを見て、農業にかける思いが再燃し、農業で頑張ろうと決意を新たにしました。

と栽培に取り組んでおり、その活気ある姿に触発され試験的にハウスの一部にキクを栽培したことが、私の農業の転換点です。経済成長に合わせて花の需要は年々高まり、作り始めてから花の消費も右肩上がり伸びていったことで、野菜栽培からキク栽培へ移行。今では1.5haにまで規模を拡大することができました。牛や豚なども同じだと思いますが、作物の管理においても日々の観察が最も大事です。手入れや温度、水管理など、より手をかけた分だけ生き物は必ず応えてくれます。努力した分だけ高品質なものができるのが栽培の魅力です。今日までキクの栽培農家として

キク栽培農家

なかつじ まさと
中辻 正人 さん

頑張ることができたのは、野菜からキクへ転換した当時、同世代の同じ農家の仲間たちと日々試行錯誤しながら夢中になって取り組めたからだと思っています。仲間がいなければ継続できなかったかもしれせん。

地域の役に立てればと思いい、平成13年から指導農業士として、新規就農者等の課題や悩みなどを聞いたり、農業経験を生かして助言を行う活動を続けています。肝属地区は新規に就農する方が増え、定着している状況であり、日本の食料供給基地として期待されています。大隅の大地で頑張っている若い農家の皆さんに農業の素晴らしさを伝えていきたいです。



【右】1日が同じ作業ばかりにならないよう時間ごとに^{てきらい}摘蕾、収穫など変化に富んだスケジュールを心掛けている。

【左】将来の消費者ニーズに的確に対応できるように、新品種の試作も毎年行っている。

経験を生かし
地域へ恩返し

昭和23年生まれ。串良町細山田在住。花きの大規模経営農家として先進的な取り組みや技術確立を図る。休みの日は近所に住み野菜作りに興味がある小学5年生の孫と一緒に手入れをするのが最近の楽しみと話す。(71歳)

